

言語活動の充実を目指した単元構想

今回は、単元構想について解説します。単元構想は、言語活動の充実を目指すことが最も重要です。



単元構想の基本

第一次 学習の見通しをもつ。

この単元で、どのような力を身に付けさせるのか、ゴールが見えるように、具体物の提示や学習の流れを児童生徒に示し、単元を貫く言語活動を意識させる。

第二次 教材文を学習する。

教科書教材を学習する目的や必然性を、単元を貫く言語活動と関連させて、常に児童生徒に意識させる。

第三次 学習したことを活用する。(ゴール)

教科書教材で学習(習得)したことを活用させる。

※ 活用の重視のために、第四次を加え、作成した具体物等をお互い評価し合うなど、交流の場を設けることも効果的である。



単元を通して、児童生徒にどのような力を身に付けさせるかを明確にし、第一次、第二次、第三次を関連させて位置付けることが大切です。

単元を通して、**螺旋的に、繰り返し指導しないと**、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった、国語の力は身に付きません。

「単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想のために」を使い「大造じいさんとガン」で説明します。



# 単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想のために 【第5学年「大造じいさんとガン」】



※ 下から書いていきます。

- ⑤ 単元の導入で意欲と見通しを持たせる（第一次）には…
- 教師が作成した本のショーウィンドウを提示し、この単元の学習の見通しをもたせる。
  - 自分が好きな動物の本をショーウィンドウにする。（ショーウィンドウの内容を決める。）



- ④ その力を身に付けられる指導過程（第二次）は…
- 本のショーウィンドウを作るために、「大造じいさんとガン」で、登場人物の関係、主人公の心情の変化、好きな場面の観点で読み取る。
  - 並行して、選んだ動物に関する本を読む。



- ③ そのために必要な力は…
- 登場人物の相互関係をとらえる力
  - 主人公の心情の変化を読み取る力
  - 好きな場面を選び、その理由をまとめる力



- ② その力を身に付けるのにぴったりな、「単元を貫く柱となる言語活動」（第三次）は…
- 自分の選んだ本で、本のショーウィンドウ（登場人物の関係、主人公の心情の変化、好きな場面）を作る。



- ① 単元で身に付けさせたい力は…
- エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた描写について自分の考えをまとめること。

※ 本のショーウィンドウとは、ベルリン・ブランデンブルク州立学校メディア研究所で開発されたもので、本のタイトルや作者、子ども自身の名前を書き、本の中で一番気に入った場面を描いてショーウィンドウの形にするもの。

## まとめると

- 言語活動の充実を目指した単元構想のポイントは
- 単元で身に付けさせたい力を明確にします。
  - 第一次、第二次、第三次を「単元を貫く言語活動」で関連付けます。
  - 第二次では、教材文の学習が第三次で活用されることを、教師も児童生徒も常に意識します。



「単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想のために」の枠は、  
ここからダウンロードできます。ぜひ、活用してください。